

① 世界恐慌とブロック経済

W.W.I 後の繁栄は、世界経済の中心だったアメリカで起こった恐怖をきっかけに終わり、世界的な不況の時代が始まりました。

**世界恐慌**…1929年10月、アメリカのニューヨーク株式市場の株価が大暴落をきっかけに始まった世界的な不景気と経済混乱。

大戦後のアメリカでは株式への投資が盛んでしたが、1929（昭和4）年10月ニューヨークの株式市場で株価が大暴落して取り付けさわぎが起こり、多くの銀行が倒産して恐慌になりました。その結果、資金を借りられなくなった多くの企業が倒産し、失業者が増えたために物が売れなくなり、それがさらに倒産を増やすという悪循環が生まれました。こうして、恐慌は深刻な不況を生み出しました。またアメリカは、多くの国に資金を貸していたので恐慌は世界中に広がり、ほかの国々にも深刻な不況をもたらしました。



(1) アメリカのニューディール

アメリカは恐慌への対策として、(1) ) 大統領の下、1933年から(2) ) (新規まき直し) という政策を始め、農業や工業の生産を調整し、積極的に公共事業をおこして失業者を助け、労働組合を保護しました。これにより、アメリカ国内では国民の購買力が上向き、経済が回復に向かったため、(3) ) の政治も維持されました。この一方で、アメリカは自国の産業を優先して保護貿易の姿勢を強めたため、輸出入は大幅に減りました。当時アメリカは世界最大の貿易国であり、この政策はアメリカへの輸出が重要だった国々にとって大きな打撃になりました。



(2) ブロック経済 (イギリス・フランス)

大不況の中でイギリスは、本国と植民地との関係を密にし、オーストラリア、インドなどとの貿易を拡大する一方、それ以外の国の商品に対する関税を高くしました。このように、関係の深い国や地域を囲いこんで、その中だけで経済を成り立たせる政策を(4) ) といいます。植民地の多いフランスも、同じようにブロック経済を採りました。

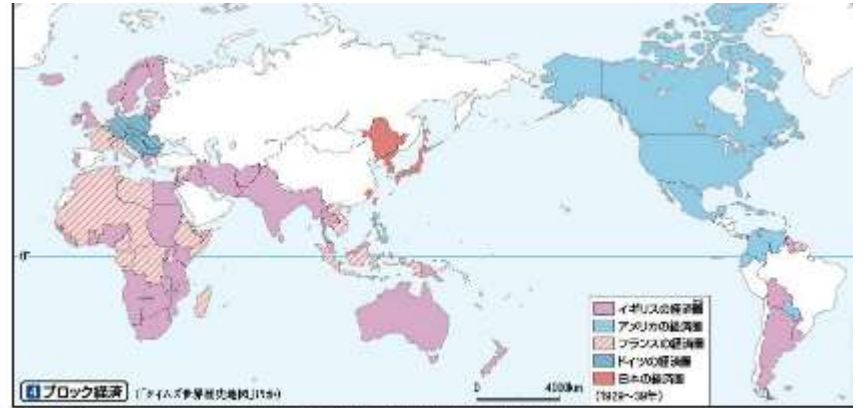
(3) イタリア・日本・ドイツ

これに対して植民地の少ない、イタリア、ドイツ、日本などは、自らのブロック経済圏を作ろうとして、新たな領土の獲得を始めました。

(4) ソ連 (ソビエト社会主義共和国連邦)

一方で、五か年計画立てるなど、独自の経済政策をとっていたソ連は、大不況の影響を受けることなく成長を続け、アメリカに次ぐ、工業国になりました。

このように各国は、10年ほど続いた深刻な不況に対して、それぞれ自国第一の政策を追求したので、国際連盟などによってできあがっていた(5) ) の体制は大きくゆらぎました。



まとめ

---

---

---

---

---

---